

無伴奏混声合唱のための愛歌曲集

『金子みすゞの八つのうた』

作詩／金子 みすゞ 作曲／新実 徳英

指揮／寺田 昂平

不誠実で横暴な夫から娘を守るため、遺書を残して自殺し、わずか26年で生涯を終えた金子みすゞ。その短い生涯で500余編もの詩を綴り、その一部は死後90年が経とうという現在も教科書に記載されるほど、私たちの心に深く語りかける優しさに溢れている。

『私と小鳥と鈴と』

自分とその他を比べ、それぞれの尊さを率直に表現し尊重する、今なお色褪せぬ優しい詩である。

『報恩講』

報恩講とは仏様に感謝する荘厳な法事のこと。しかしこの詩では、普段は寝ている夜中にみんなで集まり、顔を合わせるのが楽しくてしょうがない子どもたちが描写され、その楽しさを共感できる詩となっている。

『灯籠ながし』

死者の魂を弔うために行う灯籠ながし。この詩では、その流した灯籠をいつまでも目で追いつけているような情景が書かれている。

これらの詩に新実徳英が作曲した旋律を合わせ、それぞれの詩の訴える事柄や雰囲気をもより強く、より繊細に伝えられる合唱となっている。詩の持つ優しい力と、音楽の持つ伝える力との調和を是非ご堪能ください。

(文責:大嶽宣伸)